

息子と飯豊連峰を縦走

4期 佐藤 秀紀

●プロローグ

昔登ってみたいと思っていた飯豊連峰の山旅を息子（東京在住、45才）と一緒にやってきた。ふとしたきっかけから、ここ数年息子と山旅をやっている。2014年：宮之浦岳、仙丈岳・甲斐駒ヶ岳、2015年：白峰三山、鳳凰三山、2016年燕岳から蝶ヶ岳。今年は7月12日から16日までの4泊5日の長い日程（山麓1泊、山中3泊）となった飯豊連峰。

●第1日目＜奥胎内ヒュッテ（泊）までの移動＞

8:23 金沢発（はくたか）上越妙高で信越線乗り換え、12:30 新潟着、東京からの息子と合流。13:43 新潟発、羽越本線「中条」下車。タクシーにて奥胎内ヒュッテまで(50分)。なかなか雰囲気のある山中のホテル。客は我々二人だけ。標高340。

●第2日目＜登山口(480)から大石山(1567)までの急登を経て頼母木小屋まで＞

4時起き。おにぎり朝食を済ませて5:30 発の乗合タクシー（シーズン中は旅館前に待機）にて土砂降りの雨の中を登山口まで10分程。5:40 雨の中、登山口出発。雨具を着ての急登は気温も高くしんどい！ヒメサユリ（ササユリより小型で濃い桃色、可憐。飯豊連峰いたるところに群生して素晴らしい）が所々にあり、慰められる。11:15 大石山(1562)の分岐に出る。左をとれば杵差岳（えぶりざしだけ、1636）。12:00 頼母木小屋到着。かなり疲れる。小屋の水は湧水をサイホン原理で引いたもので流し放題。冷たくておいしく、ありがたい。この水の有り難さをこの後の日程で何度も思い知らされる。



頼母木小屋の親爺と語らう息子

昼食後、検討の結果（荷物の軽減、天候の回復）、少し早いがこの小屋で泊とすることにする（冷えたビールと勧めてくれた人の良さそうな小屋のおやじの誘惑もあった）。辺りは白いガス。のんびりとおやじと三人でビールを飲みながら山の話。至福の時。泊は我々二人だけ。二階建の避難小屋（ここらの小屋は全て行政(市、町)の所有、管理人に夏期だけ運営委託）のため、小屋構造、運営システムが似ている。トイレは別棟で良く管理されて清潔。大を使用後は微生物分解を促進させるため自転車こぎ20回以上義務。

二人だけでゆったりと小屋を使い、睡眠促進剤もあり、気持ちよく早くから眠りに入る。

●第3日目＜頼母木小屋から地神山・門内岳・北股岳・烏帽子岳を越えて御西小屋までの旅中最長距離を歩く＞

4時前起床。薄曇りで雲海も見える。冷たい水で顔を洗っていると東の空に雲間から真っ赤なご来光。有り難きかな太陽。

5:15 頼母木小屋発。6:40 地神山(1850)。ミヤマウスユキソウ、イイデリンドウ（固有種、副片が直立する）、ニッコウキスゲ、シャクナゲ、ハクサンチドリ、ウズラバハクサンチドリ、ウラジロヨウラク、ヨツバシオガマなど花が多数。7:45 門内小屋、9:25 北股岳(2024)、10:10 梅花皮（かいらぎ）小屋。小屋に水なく30m離れた水場まで水汲みに行き昼食。イイデリンドウの特徴のはっきりした個体発見。



イイデリンドウ

11:55 烏帽子岳(1895)、長い雪渓ありアイゼンを着ける。飯豊の特徴はゆったりした尾根と豊富な雪渓であろう。シラネアオイ、ハクサンコザクラ、チングルマ、ハクサンイチゲ（肝心の白山で



烏帽子岳を下って雪渓を歩く

は珍しい)、ニッコウキスゲなど。15:00 今日の宿泊の御西小屋到着。水は無く、大日岳方向に 300 mほど下った雪渓の雪解け水を汲みに行く。夕食・朝食分の水を補給。とりあえずビールで乾杯。よく歩いた！ 本日の宿泊者は他に団体の 7 人。

●第 4 日目＜大日岳往復、飯豊山、本山小屋、切合小屋を経て三国小屋まで＞



大日岳

5:15 小屋から大日岳(2128、飯豊連峰中最高峰)往復。8:15 小屋発。御西岳を経て雄大な高原を往く。9:45 主峰の飯豊山(2105)山頂に至る。



飯豊山山頂

10:10 本山小屋にて飯豊山神社に詣でる。本山小屋では水を売っていた。岩場(御秘所)を経て 12:00 切合小屋着。宿泊の三国小屋には水がないので汲みためていく。14:20 三国小屋着。最後の夜は翌朝下る剣ヶ峰の岩場のことが気にかかりうまく眠れず。

●第 5 日目＜剣ヶ峰を経て川入まで下り山歩きは終了＞

5:10 小屋発。ストックを仕舞って、剣ヶ峰の岩場にとりかかる。思ったほどの厳しさはなく慎重に降る。



剣ヶ峰の岩場を往く

6:20 水場。湧水が出ており、おいしい。上・中・下十五里の標識を経てブナ林をひたすら下る。8:20 御沢登山口到着。長い山歩きは終わった。

キャンプサイトを経て川入バス停まで林道を往く。9:05 バス停着。時間があるので谷川に入り足を流れに浸し、川縁でしばし昼寝。10:30 バス発(3人)。途中の「いいでの湯」で下車。温泉に入って 4 日間の汗を流し、ビールで乾杯し長かった山旅の無事終了を祝う。タクシーにて山都駅まで。15:01 山都駅発。東京へ帰る息子と次回の山行を約して別れる。17:11 新津着。17:18 新津から 19:29 妙高高原着。20:15 妙高高原発、21:19 金沢着。念願の長い山行の旅は終わった。

●エピローグ

重い荷物(小屋は食事・寝具提供無し、所によっては水も無し。寝袋、アイゼン、3 日分食料など)を担いでの長旅で最初は少し不安であったが、心配の天候も登山一日目の雨を除けば 3 日間とも雨無しに恵まれ、雄大な雪渓とたおやかな山並みの尾根歩き、種々の高山植物を楽しんだ思い出深い山行となった。良き相棒、息子に感謝。